

宮城牛タンラウンドの開催について

令和元年12月8日（日）開催

■ はじめに

今回は、多種多様なメンバーが仙台に集まりました。保健体育科の教員を目指す大学生2人、小学校教員6人、中学校教員2人、高等学校教員1人、リーフラス株式会社から3人、行政から4人計18人です。県内はもちろん、大阪府、秋田県、岩手県、山形県から参加いただき、保健体育科の評価について、多角的多面的な話し合いを転換することができました。皆さんからの声に臨機応変に対応いただいた佐藤先生、高橋先生ありがとうございました。

■ 話題提供1 「新学習指導要領と学習評価」 日本女子体育大学 教授 高橋 修一

今回は「評価」に焦点を絞ったラウンドにいたしました。高橋先生からは、新学習指導要領の評価について、分かりやすく解説をしていただきました。昨年度の教育課程において、「評価については今後…」と言われたのだけれど、小学校の全面実施は目の前に迫っている、評価はどうすればいいの？という不安を解消できるように、「大丈夫？」「先に進んでいい？」と対話しながら話を進めてくださいました。



■ 話題提供2 「小学校体育科授業における支援」リーフラス株式会社東北支社長 古川 友裕

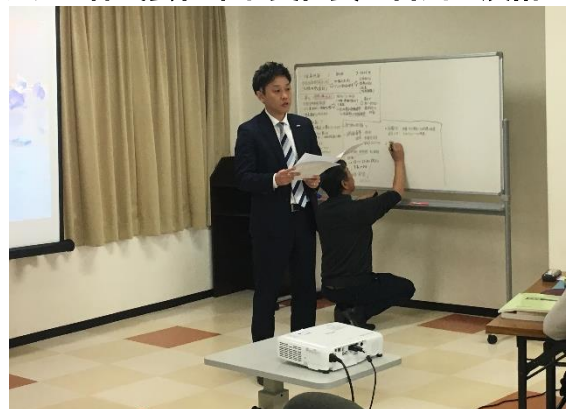
宮城県では、民間企業や大学と連携して小学校体育科の授業改善と児童の運動に楽しく触れる機会を創出する事業を立ち上げて取り組んでいます。

その1つである、利府町立菅谷台小学校との連携事業について、リーフラス株式会社東北支社長の古川氏に話題を提供していただきました。

菅谷台小学校には、2人の体育指導員を派遣していただき、授業のサポートと休み時間の運動遊びのプロデュースをさせていただいています。

ラウンドには、実践校の教員、リーフラス株式会社東北支社長、支社長補佐、体育指導員にご参加いただきましたので、教員、行政、学生それぞれの目線からの質問や意見が飛び交い、有意義な時間を過ごすことができました。

リーフラス株式会社の皆さんからは、学校や行政の意見や考えに触れることができる貴重な機会であったとの感想をいただきました。ファイナルラウンドでは、ポスターセッションにも参加いただく予定です。



■ グループワーク 「体育の授業時における評価の在り方を探る」

小学校での新学習指導要領全面実施に向け、「理解はしているけれどできない子はどう評価するのだろうか…」「技能はあるけれど、偶然にできたという場合はどのような評価になるのだろうか…」といった声。普段の体育の授業での「授業時間にクラス全員の評価をすることって難しい…」「一生懸命に取り組んでもできない子の評価はどうしているの?」という声があがりました。

グループで話し合う中で解決したことも多くあったのですが、最後の共有の場であがったのは、新学習指導要領に示された「『知識及び技能』の評価」、通常の授業における「評価のタイミング」、「教師間、生徒と教師間の評価のずれ」でした。これについては、振り返りにおいて、佐藤豊先生、高橋修一先生がそれぞれ課題解決につながる話をしてくださり、参加者一同、学校で共有するぞ!と前向きな気持ちでラウンドを終えることができました。



■ 振り返り

先生方の困り感に対しては、次のようなアドバイスをいただきました。

【単位時間内の評価】

- Cの子を見つけて、Bに引き上げる手立てを講じる。
- 評価は単元の中で計画的に行う。

【評価のずれへの対応】

- レッスンレベル（授業の基礎）を合わせる。
- 楽しさと力を付けるバランスのとれた授業を展開する。

【観点別評価】

- どこに向かっているのかを明確にする。
- 知識と技能の評価は発達の段階によって異なる。

新学習指導要領全面実施に向けて、評価について不安を抱えていた先生が多かったのですが、先生方の困り感を捉え、整理し、分かりやすく解説していただきましたので、ラウンド終了時には皆さんに笑顔がもどっておりました。そして、何より子供たちとともに体育の授業を行うことを心待ちにしているように思えました。

桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊

